

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900722		
法人名	有限会社 やすらぎの里		
事業所名	グループホーム やすらぎの里		
所在地	熊本県八代郡氷川町鹿島943番地		
自己評価作成日	平成21年10月10日	評価結果市町村受理日	平成21年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205
訪問調査日	平成21年10月23日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>一、私達は利用者と共に泣き笑います</li> <li>一、私達は利用者の悩みを親身になり解決に努めます</li> <li>一、私達は利用者と共に本気で付き合います</li> <li>一、私達は利用者の家族です</li> <li>一、私達は地域の皆様と共存共栄する事を強く望みます</li> </ul> <p>この5つの理念に沿って毎月具体的な目標を掲げて実践に取り組んでいます 職員全員が明るく楽しい職場を目指し、利用者が「その人らしく生活できる」よう支援しています</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>今年度は理念の具現化、職員の異動に伴う人材育成に取り組み、三役会(利用者統括担当、コンプライアンス、拘束・虐待防止)を立ち上げ、体制の強化、家族との関係構築、職員のレベルアップが具体的な利用者へのケア向上に繋がっている。また、介護計画担当者も代わり、入居者の“今”に即した入居者本位のプランに再作成し、職員の寄添いや個別ケアにより入居者18名が一つの家族として穏やかな日常生活を支援している。隣接の特養ホームとの医療連携や緊急時体制の構築、ホームの的確な記録のもと重度化の入居者を支えており、家族にも安心感を与えている。更に、“いきいきサロン”場所提供の継続により、地域高齢者との交流促進につながっており、12月には認知症サポート養成をホーム独自で行うことが決まっている。今後、更に地域での生活を拡充されることが期待できる。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらい</li> <li>3. 利用者の1/3くらい</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ul>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ul>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ul>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ul>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くない</li> </ul>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ul>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所には5つの理念があり玄関に掲げてあるので、出勤時毎朝見て、理念に沿った対応が出来るよう心がけている	基本理念5項目を玄関に大きく掲示し、来訪者への啓発や職員の意識向上を図っている。管理者は職員に今の介護で充分なのか常に向上心を持つことを指導し、職員も毎月具体的な目標を掲げ、理念をケアに生かすべく努力している。更に今年度は、理念を新たに平易な言葉で具現化し、全員が所持することで共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の人達や、入所者の家族が入りやすいよう、玄関はいつも大きく放たれている。いきいきサロンの人達にも気軽に訪問してもらっている。通りがかりの人達にも気軽にあいさつを交わしている	道路に面したホームは道行く人々と気軽に挨拶を交わしたり、散歩時や隣接法人の行事で地域の人々と交流を図っている。また、“いきいきサロン”としてホームを提供し、地域の高齢者との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や地域の人々を対象とした認知症サポーター養成講座を計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の会議以降の事業所の報告を詳しく行い、意見や評価、質問を頂いている。指導頂いた事は改善し、サービスの向上に繋げている	運営推進会議“ざっくばらん委員会”は目的を持って協議していることが確認できた。委員からもホームを更に良くしたいという好意的で活発な意見が出ており、検討内容を詳しく説明し改善を図っている。自己・外部評価結果も意見交換をし、地域交流の促進にホーム独自で認知症サポーター講習を開催することが会議の中で決定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の近くに役場があり、事業所の事をよく知ってもらっているの、気軽に相談に乗ってもらえ、アドバイスを頂くことがあり、事業所のサービス向上に役立っている	日頃から情報交換や相談に出向き、アドバイスをもらえる等協力関係を築いている。また、生活保護受給者も入居されており、行政担当者と連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の為夜間は施錠するが、日中は玄関や庭への出入り口は解放しています。車椅子から突然立ち上がる人がいますが、常に見守りを行い、危険を防止しています	ホーム独自のコンプライアンス指針を作成し、勉強会を開催している。今年度はコンプライアンス主任の配置と、4半期毎に拘束・虐待の実態調査、分析と対策により身体拘束の無いケアに取り組んでいる。玄関は日中開放しており、職員同士が声かけしながらチームワークで所在確認の徹底に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	7月「権利擁護と虐待について」勉強会に4名参加。8月「認知症介護者実践者研修」に2名参加。虐待防止について職員全員で勉強会を開き虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	7月と8月の研修会に参加し、職員全員に周知している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約の内容について説明し、家族の不安や疑問点など安心されるよう詳しく丁寧に説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から意見、要望が出た時は、すぐ管理者や職員で話し合い、運営に反映させている	家族の訪問時の対話や訪問の遠のく家族には管理者が自宅を訪問し聞き取りを行い、出された要望などはその都度話し合い、ケアに反映させている。また、面会リスト(個別)に意見や要望の記載欄を設けているが、苦情は出ていないとの事である。苦情相談窓口及び担当者、公的機関を説明し掲示している。	12月開催予定の運動会に家族も招待されており、家族同士の意見交換や交流の場として期待される。家族会の設立に向けたきっかけになればと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開く事はないが、その都度職員と管理者で話し合いをし、運営に反映させている	管理者は日々職員とのコミュニケーションを図っているが、今年度から三役会(利用者統括責任者、コンプライアンス委員長、拘束・虐待防止委員長)を立ち上げ、職員は意見や要望があれば三役会への申し出、三役会で話し合い最終決定することとしている。重要な懸案については全職員で会議を開いている。三役会が相乗効果となり、職員同士の人間関係を良好なものとし、具体的な利用者へのケアにつながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力した職員に対しては給与の見直しをしたり、各自がやりがいを持って働けるよう環境を整備したり、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修を受ける機会を設けている。職員間で意見交換し、より良いケアができるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「宅老所・グループホーム連絡会八代ブロック会」の毎月の勉強会に参加し、他グループホームの職員と意見交換し、サービスの質が向上するよう努めている		

## Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安に思っている事等を、本人が話しやすいように気を配りながら聞きだしている。本人が表現出来ない場合は、表情や動作から察知出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、要望等をよく聞き、家族が納得されるような対応ができるよう努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が何を必要としているかをじっくりと話を聞き、訴えを汲み取り適切なサービスが提供できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の一つに「私達は利用者の家族です」がある。介護してあげているという思いではなく、一緒に過ごしている家族なのだという意識を持って生活しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時には現況報告を行い、家族にも状況を把握してもらっています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで生きてこられた経歴を知る事で、関係のある人や生活環境がわかり、支援する事ができている	職員の傾聴により入居者から発せられた名前から知人の訪問へとつながったり、行きつけの美容室の利用、受診時の自宅訪問、海や馴染みの店での買物等、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で気の合う人達は自然と関わっているが、自分から関わる事が出来ない人達は職員が声かけなどを行い、孤立しないよう気配りをしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者の家族から相談などがあつた時は自宅訪問したり、来館してもらって相談にのっている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示の困難な人が多いので、表情や言葉から、本人の希望や意向を把握できるように努めている	入居者の心の思いを察知し、関わりを深めることに取り組んでおり、職員は寄添いのケア、傾聴に努め、表情や発せられる言葉から把握している。また、家族や親戚・知人等の関係者より情報を得て、本人本位になるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、前入所施設からのサマリーや前担当ケアマネージャーより情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は、一人ひとりその人の能力に合った状態で過ごしてもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞き、職員間で話し合い、介護計画を作成している	新体制となり入居者全員のアセスメントを取り直し、誰が見てもわかり、すぐ実践につながるプラン作りに取り組んでいる。毎日管理日誌にプランの課題に対しての状況を記載し、プラン作成前には家族から意見を聞き、全員参加の担当者会議により現状に即した新たなプランを作成している。ケア対応が変わる場合には申送りノートを活用し共有化を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護サービス管理日誌を作成し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に	ニーズに対して期待に添えるような柔軟な対応を心掛け、多機能化に取り組み行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアグループの訪問を受け、唱歌や懐メロと一緒に歌ったり、踊ったりして楽しいひと時を過ごしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談し、利用者全員ホームの嘱託医をかかりつけ医としているので、緊急時にもすぐ対応してもらっている	入居時に家族との相談のもと、ホームの嘱託医をかかりつけ医として、定期的な往診や受診を支援している。緊急時対応の指針も取り決め、医療との連携を図っている。精神科や心療内科は職員が受診対応を行い、情報の把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常に気付いた時はすぐ特老の看護師に相談し、迅速適切に指示を受け、受診などに繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には馴染みの職員が交代で病院訪問し、安心して入院が続けられるようにしている。また病院関係者とは情報交換し相談にも乗ってもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護を導入しているため、家族から相談があった時や面会に来られた時など、機会を見て終末期の在り方について話し合いをしている	家族と話し合いを重ね、具体的な指針のもと、家族より看取り看護の同意書を受け入れている。家族・かかりつけ医・ホーム側で協議し、新たな看取り介護看護計画書”を作成し、隣接看護師と連携を図っている。管理者は看取り訪問介護を振り返り、「人の最期にかかわり、ありがとうという気持ちになった。」と語られた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	時間を設けて定期的に訓練は行っていないが、機会あるごとに併設特老の看護師長から指示を受け実践力が身に付くようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中の場合は併設の特老から職員の協力を得るようになってきている。夜間は緊急連絡網で全職員が出動するようになってきている。またご近所の皆さんや、地域消防団にも協力を仰ぐことになっている	毎日の自主検査、毎月の自主点検を行い、総合訓練を行っている。避難経路の確保、夜間の抜き打ち緊急集合を行い、自衛消防隊を編成し隣接職員の協力や地域の消防団や近隣住民に協力要請を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定的な返答をしないように心がけ、本人の誇りやプライバシーを傷つける事がないような対応に努めている	職員は理念の一つ“私達は利用者の家族です”をもとに、人生の大先輩として尊敬の念を持って接するよう努めている。言葉遣いや対応に敬意を払い、職員育成マニュアルをもとに勉強会を開催している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話をしっかり聞き、その人に合った話し方で説明し、自己決定が出来るように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物希望や、同敷地内にある他の施設に入所中の家族に会いたい希望があった時は職員が同行し、支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度の訪問理髪を利用し、その人に合う髪型の散髪をお願いしている。行きつけの理美容店を希望される人には職員が同行し、支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事が好きな人達には下膳、テーブル拭き、食器拭き、おしぼりたみ等、楽しみながらしてもらっている	テーブル拭きや食器拭き等一緒に行っている。介助の必要性から入居者と職員が同時帯に食事を楽しむことは困難になっている。個々の嚥下状態や咀嚼などに応じ特別食(ミキサー食やキザミ等)で対応している。	入居者の重度化に伴い見守りや介助が必要となってきたが、職員も一緒に食事を摂ることが出来ないか検討いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	超高齢の方に対しては、その日の体調を勘案して休息を取りいれたり、して体調管理をしている。就寝時間も一応決まっているが、その人に合わせた時間に就寝してもらうようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、口の中のすすぎを行っている。義歯については自分で磨ける人には見守り、指示をすれば磨ける人、磨きの介助が必要な人と、その人に合わせた口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを調べ、トイレで排泄できるよう、一人ひとり適切な時間に誘導している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、各入居者に応じた排泄支援を行っている。適時の声かけや排泄サインの察知による誘導等、プライバシーに配慮しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を使った料理が多い。一人ひとりの排便状態を確認し、トイレへの誘導を行っている。どうしてもうまくいかない時は主治医に相談し、便秘薬を処方してもらい、様子を見ながら対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回入浴日を決めているが、その時の体調や気分によって別の日に入浴出来るようにしている	冬場は週2回、夏場は週3回を目安にバイタルチェックの見極めにより入浴を支援しているが、入居者の希望により毎日入浴する入居者や一番風呂が好きな入居者等本人のその日の気分に応じて対応している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	超高齢の方に対しては、その日の体調を勘案して休息を取りいれたり、して体調管理をしている。就寝時間も一応決まっているが、その人に合わせた時間に就寝してもらうようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋で薬の名前・飲み方・効能・副作用等を職員全員で理解し、服薬も飲まれたのをちゃんと確認している。症状に変化がないか気付けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「家事をしている時が一番楽しい」と言われる方には、その人が出来る範囲での仕事を探して、安全に出来るように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が好い時は近所を散歩している。病院受診の時は自宅近くまでドライブしたりして町内の景色を楽しんでいる	天気や季節に応じた散歩や外気浴に庭での食事会、受診時自宅まで帰ってみたり、海を眺めに行く等支援している。季節によっては、おにぎり持参のピクニック等に出かけている。	認知症サポーター養成研修をホーム独自で開催する予定であり、ボランティアの活用や家族の協力のもと、外出の機会が多くなることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理が出来る人には小銭を持ってもらい、買い物を楽しんでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自宅への電話は職員が取り次ぎをし、会話をしてもらっている。手紙の代筆や投函等も支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやカラオケの音量など、不快にならないような適当な音量にしている。掃除も毎朝丁寧にいき、汚れた時にはすぐ対処している。花瓶に季節の花をいけたり、毎月のカレンダー作りは、折り紙や切り紙で季節感を感じさせる作品にしている	ホーム内は清潔に保たれ、開放感ある玄関、両ユニットをつなぐリビングは掃除が行き届き、職員と入居者の朝礼の場としたり、“いきいきサロン”の場所として活用されている。季節の花や仏壇が置かれた畳のコーナー、ソファ等居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時の席は、気の合った利用者同士で座れるように工夫している。その他の時間は、自由に好きな場所に座ってテレビを見たりしてくつろいでもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差があり、多くの馴染みの家具に囲まれて生活されている人、殆ど家具が無く、すっきりとした部屋でゆっくり過ごされる人とさまざまである。家族写真を壁に掛けておられる人が多い	テレビや仏壇・位牌等多くの馴染みの品物を持ち込まれた部屋やすっきりと整理整頓された部屋等様々である。	中断しているカレンダー作りの継続により、見当識に配慮した居室作りに期待したい。家族と再度使い慣れた物の必要性を話し合っていたいただきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーで、廊下には手摺が設置されているので安全に移動ができる。トイレ利用の回数が多い利用者には、短時間で行けるよう部屋の位置をトイレに近い部屋にするなど工夫している		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所には5つの理念があり玄関に掲げているので、出勤時毎朝見て、理念に沿った対応が出来るよう心がけている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の人達や、入所者の家族が入りやすいよう、玄関はいつも大きく放たれている。いきいきサロンの人達にも気軽に訪問してもらっている。通りがかりの人達にも気軽にあいさつを交わしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や地域の人々を対象とした認知症サポーター養成講座を計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の会議以降の事業所の報告を詳しく行い、意見や評価、質問を頂いている。指導頂いた事は改善し、サービスの向上に繋がっている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の近くに役場があり、事業所の事をよく知ってもらっているため、気軽に相談に乗ってもらえ、アドバイスを頂くことがあり、事業所のサービス向上に役立っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の為夜間は施錠するが、日中は玄関や庭への出入り口は解放している。職員が目が届かないドアから出て行かれる人がいますが、常に見守りを行い、危険を防止している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	7月「権利擁護と虐待について」勉強会に4名参加。8月「認知症介護者実践者研修」に2名参加。虐待防止について職員全員で勉強会を開き虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	7月と8月の研修会に参加し、職員全員に周知している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約の内容について説明し、家族の不安や疑問点など安心されるよう詳しく丁寧に説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から意見、要望が出た時は、すぐ管理者や職員で話し合い、運営に反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開く事はないがその都度職員と管理者で話し合いをし、運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力した職員に対しては給与の見直しをしたり、各自がやりがいを持って働けるよう環境を整備したり、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修を受ける機会を設けている。職員間で意見交換し、より良いケアができるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「宅老所・グループホーム連絡会八代ブロック会」の毎月の勉強会に参加し、他グループホームの職員と意見交換し、サービスの質が向上するよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安に思っている事等を、本人が話しやすいように気を配りながら聞きだしている。本人が表現出来ない場合は、表情や動作から察知出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、要望等をよく聞き、家族が納得されるような対応ができるよう努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が何を必要としているかをじっくりと話を聞き、訴えを汲み取り適切なサービスが提供できるよう努めている、		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の一つに「私達は利用者の家族です」がある。介護してあげているという思いではなく、一緒に過ごしている家族なのだという意識を持って生活している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には現況報告を行い、家族にも状況を把握してもらっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで生きてこられた経歴を知る事で、関係のある人や生活環境がわかり、支援する事ができている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で気の合う人達は自然と関わっているが、自分から関わる事が出来ない人達は職員が声かけなどをおこない、孤立しないよう気配りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所し、併設の特別養護老人ホームに行かれた利用者には、定期的に訪問し、お付き合いを継続している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示の困難な人が多いので、表情や言葉から、本人の希望や意向を把握できるように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、前入所施設からのサマリーや前担当ケアマネージャーより情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は、一人ひとりその人の能力に合った状態で過ごしてもらっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞き、職員間で話し合い、介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護サービス管理日誌を作成し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して期待に添えるような柔軟な対応を心掛け、多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアグループの訪問を受け、唱歌や懐メロを一緒に歌ったり、踊ったりして楽しいひと時を過ごしていく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談し、利用者全員ホームの嘱託医をかかりつけ医としているので、緊急時にもすぐ対応してもらっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常に気付いた時はすぐ特養の看護師に相談し、迅速適切に指示を受け、受診などに繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には馴染みの職員が交代で病院訪問し、安心して入院が続けられるようにしている。また病院関係者とは情報交換し相談にも乗ってもらっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護を導入しているので、家族から相談があった時や面会に来られた時など、機会を見て終末期の在り方について話し合いをしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	時間を設けて定期的に訓練は行っていないが、機会あるごとに併設特老の看護師長から指示を受け実践力が身に付くようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中の場合は併設の特老から職員の協力を得るようになっている。夜間は緊急連絡網で全職員が出動するようになっている。またご近所の皆さんや、地域消防団にも協力を仰ぐことになっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定定期的な返事をしないように心がけ、本人の誇りやプライバシーを傷つけることがないような対応にしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話をしっかり聞き、その人に合った話し方で説明し、自己決定が出来るように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事はホールでみんなで楽しく食べることにしているが、それ以外の時間は、ホールで会話を楽しんだり、自室でテレビを見たりして自由に過ごしてもらっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度の訪問理髪を利用し、その人に合う髪型の散髪をお願いしている。行きつけの理美容店を希望される人には職員が同行し、支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事が好きな人達には下膳、テーブル拭き、食器拭き、おしぼりたたみ等、楽しみながらしてもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養面は特老の栄養士に依頼している。適切な水分量が確保できるよう3食の水分補給以外でも2回のお茶の時間を設けたり、入浴後の水分補給などに気をつけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、口の中のすすぎを行っている。義歯については自分で磨ける人には見守り、指示をすれば磨ける人、磨きの介助が必要な人と、その人に合わせた口腔ケアを行っている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを調べ、トイレで排泄できるよう、一人ひとり適切な時間に誘導している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を使った料理が多い。一人ひとりの排便状態を確認し、トイレへの誘導を行っている。どうしてもうまくいかない時は主治医に相談し、便秘薬を処方してもらい、様子を見ながら対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回入浴日を決めているが、その時の体調や気分によって別の日に入浴出来るようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	超高齢の方に対しては、その日の体調を勘案して休息を取りいれたり、して体調管理をしている。就寝時間も一応決まっているが、その人に合わせた時間に就寝してもらうようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋で薬の名前・飲み方・効能・副作用等を職員全員で理解し、服薬も飲まれたのをちゃんと確認している。症状に変化がないか気付けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	下膳やテーブル拭きなど毎日の日課になっている人や、歌が好きな人達は、カラオケを楽しんだりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候がよい時は近所を散歩している。ドライブを兼ねて病院受診し、景観を楽しんでもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理が難しい人達ですので各自、所持金はありません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自宅への電話は職員が取り次ぎをし、会話をしてもらっている。手紙の代筆や投函等も支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやカラオケの音量など、不快にならないような適当な音量にしている。掃除も毎朝丁寧にいき、汚れた時にはすぐ対処している。花瓶に季節の花をいけたり、毎月のカレンダー作りは、折り紙や切り紙で季節感を感じさせる作品にしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時の席は、気の合った利用者同士で座れるように工夫している。その他の時間は、自由に好きな場所に座ってテレビを見たりしてくつろいでもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差があり、多くの馴染みの家具に囲まれて生活されている人、仏壇を置いておられる人、殆ど家具が無く、すっきりとした部屋でゆっくり過ごされる人とさまざまである。家族写真を壁に掛けておられる人が多い		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーで、廊下には手摺が設置されているので安全に移動ができる。トイレ利用の回数が多い利用者には、短時間で行けるよう部屋の位置をトイレに近い部屋にするなど工夫している		